

連載

もう、悩まない！ 『石原健の HOTEL LOVERS』

#20

日本ホテル(株)
本社・総務部 次長
村元 敬洋 氏日本ホテル(株)
本社・総務部 次長
村元 敬洋 氏

家業を継ぐ前に、
ホテルでF&Bの勉強をしたい

石原 村元さんとの出会いは、私が勤務していた「ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテル」に、「ホテルインターコンチネンタル東京ベイ」の開業準備室に第1期生として入社した村元さんが、研修生として来られたときでした。あれから既に30年以上、まずはホテリエとなった経緯を教えてください。

村元 父親が昭和49年から六本木の今のミッドタウンの向かいの場所で、ステーキ店を営っていました。子供の頃

第20回目のゲストは、日本ホテル(株)本社総務部で次長を務める村元敬洋氏は「父の経営する飲食店を継ぐ前に、ホテルのメインダイニングできちんと基礎から学びたい」と思い、ホテリエに。いったん家業を継ぐも、ホテリエで再度チャレンジしたいと思い、ホテル業界に復帰。村元氏に、そのときの心境や、今後のビジョンについて聞いた。

から高校卒業まで、兄弟4人で皿洗いの手伝いをしていて、浪人時代にはホールにも出るようになりました。ずっと店を継ごうと思っていたので、大学を出たらその前に、ホテルできちんと基礎から学びたいと思ったのがきっかけです。

石原 ご実家が飲食店であったことがきっかけですね。日本大学文理学部を卒業して、(株)西洋コンチネンタルホテルズに入社されました。

村元 お店を手伝っているときに、お客さまに「ホテル西洋銀座」のメインダイニング「パストラル」に連れて行っていただいた時のことが鮮烈で、ここで料理とワインの勉強がしたいと痛烈に感じ、「パストラル」で働くことを夢みて入社したのですが、配属が新たなホテルの準備室となり、レストラン以外のことも吸収しようと前向きに気持ちを切り替えました。

石原 そして現場を経験して営業部に配属されました。

村元 スチュワード、レストラン、宴会サービスを経て、最初は宴会セールスからのスタートでした。横浜時代に現場で毎日のように石原さんのオーダーシート(宴会手配書)を見て勉強していたので、実は東京に移ってから仲間コピーを送ってもらって参考にしていました。そ

の細やかな記述やオペレーションやテナントのスタッフに分かりやすい記載が本当に為になり有難かったです。

石原 それは嬉しい話です。その後、営業としていろいろなホテルでステップアップされていますね。

村元 就職して10年目に「ヒルトン東京」に転職しました。2年後に開業予定であった「コンラッド東京」で営業課長としてのオファーをいただき、準備室が動くまでの勉強期間としての入社でした。ホテルの新規開業を経験して次長にもなり、これからという時だったのですが、父親の体調が悪くなりホテルをやめて実家に戻りました。

忘れられず、もう一度ホテリエに
挑戦する決意を固める

石原 元々は実家を継ぐというのが将来の目標だったので迷いはなかったのでしょうか。

村元 ホテルの時間はとても楽しく有意義でしたが、やはり家族で実家を盛り立てていこうという思いの方が強かったですね。店の経営に真剣に取り組み、調理師免許をはじめ、シニアソムリエやチーズプロフェッショナルなどを取得しました。何事も面倒に思わず、まずやってみ

る！がポリシーなので、「^{はん}煩を厭^{いと}わず」を座右の銘とし、兄弟と共に運営しました。

石原 そんな中、またホテルに戻られましたね。

村元 六本木での生活も数年が経ち、弟がメインでお店も回るようになった矢先に、やはりホテルでの仕事の楽しさが忘れられず、ロイヤルパークホテルにいた以前の上司にお願いしてもう一度ホテリエとしてチャレンジしてみたいと思い転職しました。さらに翌年、「ホテル日航東京」から営業部長でというオファーを頂戴して、マネジメントとしての一歩も踏み出しました。

石原 転職をされる際に、思っていることや決め手は何でしょうか。

村元 家業からホテルに戻ったとき以外は、自分から転職を考えたことは一度もありません。ありがたいことにいつもお誘いをいただくのですが、その際には感情的にはならず、自分の経験値をあげていくことに繋がるかを決め手にしています。

石原 それを実践されてマネジメントになられたのに、また次のオファーを受けられました。

村元 「ホテル日航東京」では、本中野真さんに徹底的に鍛えられました。数字を見ること、組織をまとめることなど、一番勉強になったのですが、「ヒルトン東京お台場」にリブランドすることとなり、現在の日本ホテル(株)からオファーをいただきました。日本ホテルの藤崎斉さんには以前にもお声を掛けていただいていたので、有難くお受けしました。

お客さまをもてなす意味を伝えたい

石原 営業職での入社から、現在は本社の総務部で人事を担当されていますね。



村元 「ホテルメトロポリタン」に配属されたときは、前職での営業部長という肩書は全く関係がなく、一スタッフとしての再スタートでした。そこから2年間で課長代理となり、「東京ステーションホテル」のマーケティング&営業支配人となりました。藤崎さんの直属の部下として働けることに喜びを感じ、どん欲に吸収していた矢先に「ホテルメトロポリタン」に戻って総務人事をとの辞令を受け取り、驚きました。何か失態を犯したかと不安になりましたが、藤崎さんから将来のための異動であることを告げられ、モチベーションが上がりました。そして現在の本社での業務に繋がっています。

石原 日々の業務で心掛けていることはありますか。

村元 何事にも興味を持ちまずやってみよう、経験しないと人を説得できないと

いう考えが根底にあり、そのための勉強や努力は惜しみません。また相手の意見を否定しないで、尊重することを心掛けるように、そして情報はきちんと伝えることが組織を形成する上で重要であると考えています。

石原 若いホテリエに伝えていきたいことは何ですか。

村元 心からお客さまをもてなす意味を考えてもらいたい。それによって得られる喜びはお金では買えないものだと思っていて欲しいと思います。

石原 最後に将来の夢は。

村元 やはり、いつかは総支配人！と考えています。年齢も55歳になるので、日々チャレンジですね。

石原 いくつになってもチャレンジ精神は必要ですね。引き続き応援していきたいです。

(株)ホスピタリティデザイン 横浜
代表取締役

石原 健

Profile > 桜美林大学経済学部卒業。日本ホテルスクール卒業。ホテル産業経営塾卒塾（第一期生）。ホテル センチュリー ハイアット勤務後、1989年、ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテルの開業準備室に第1期生として入社。国内外からのVIP対応等で、4度にわたる皇室接遇担当の栄誉も授かる。ウェスティンホテル仙台を経て、2014年、(株)ホスピタリティデザイン 横浜を設立し、代表取締役。厚生労働省事業検討会委員、ホスピタリティ教育研究会 会長、HSN 会顧問、産業能率大学兼任教員など、宿泊・サービス業界団体や学校、企業などで活躍中。

